

(3) 五所川原第一高等学校

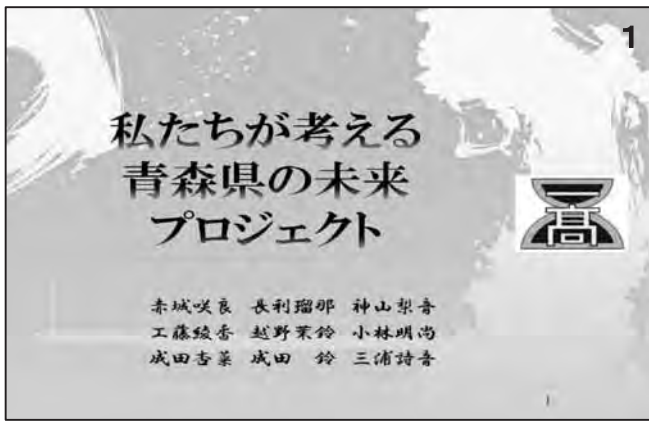
「私たちが考える青森県の未来プロジェクト」



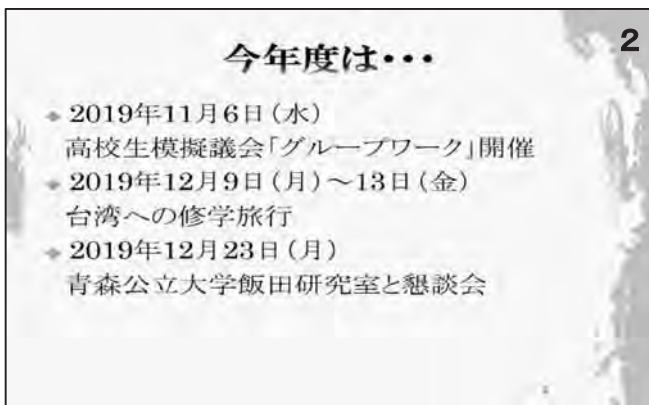
令和元年度高校生模擬議会

五所川原第一高等学校

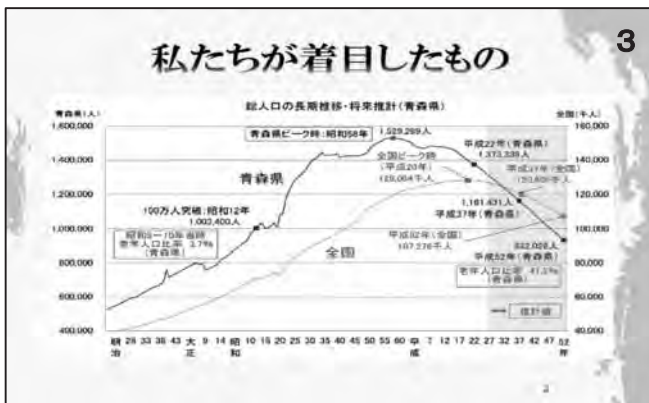
令和2年2月6日(木)



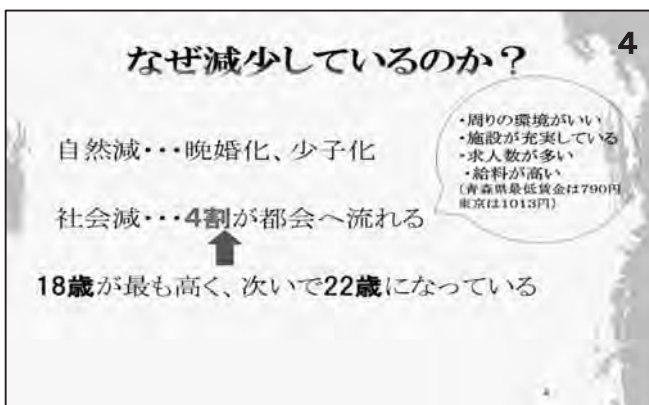
五所川原第一高等学校です。
これから、私たちが考える青森県の
未来プロジェクトについて発表を始め
ます。(1)



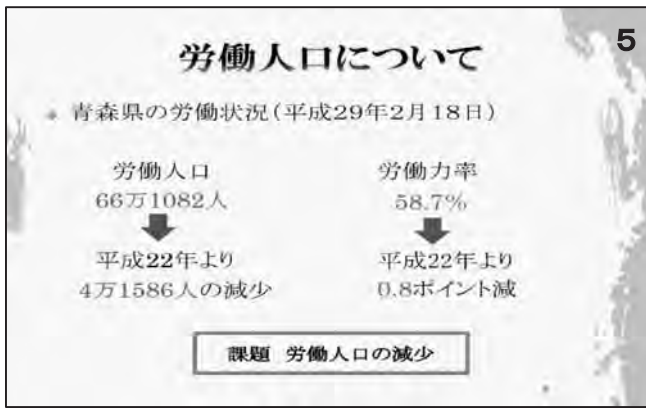
今年度の私たちの取組は、2019
年11月6日、水曜日に高校生模擬議
会「グループワーク」開催。
2019年12月9日、月曜日から
13日、金曜日に台湾への修学旅行。
2019年12月23日、月曜日に
青森公立大学飯田研究室での懇談会と
いった活動を行ってきました。(2)



この経験を基に、今回、私たちが着
目したのは、人口の減少です。
青森県は、ピークである昭和58年
の152万9,269人以降、増える
こともありませんが、減少しているの
が現状です。令和に突入したこれから
も、大幅に減少していくことが予想さ
れます。
今後は、老年人口は、2025年を
ピークに減少に転じるものの、年少人
口は2030年以降、生産年齢人口は
2050年以降に増加に転じると見込
まれています。(3)



それでは、何故、減少しているの
でしょうか。自然減としては、晩婚化、
少子化によって減少します。社会減と
しては、4割が都会に流れることが挙
げられます。その4割のうち、18歳
が最も高く、次いで22歳になってい
ます。都会へ流れる原因としては、都
会の方が周りの環境が良い、施設が充
実している、求人が多い、給料が高
いなどがあります。
青森県の最低賃金は790円で、東
京は1,013円、比べてみると22
3円も差があります。(4)

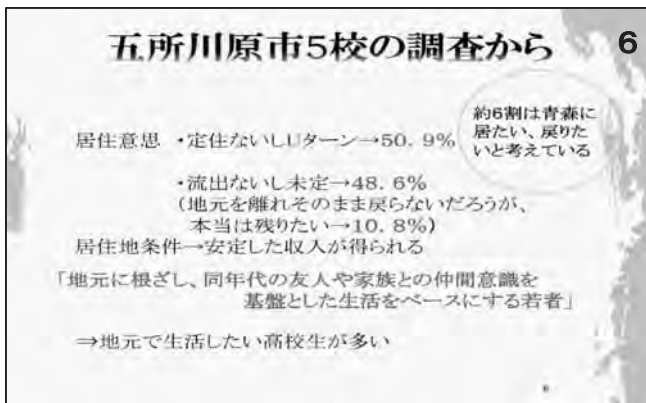


青森県の労働状況として、労働人口は平成27年の時点で66万1,082人、平成22年と比べて4万1,586人減少しています。

労働力率は58.7%、平成22年と比べて0.8ポイント減少しました。

このように平成22年と比べてどちらも減少していることが分かります。

よって、青森県の課題は、労働人口の減少だと考えました。(5)



実は、青森公立大学飯田研究室で行った五所川原市5校の調査から4割が減少する背景と繋がりがあることが分かりました。

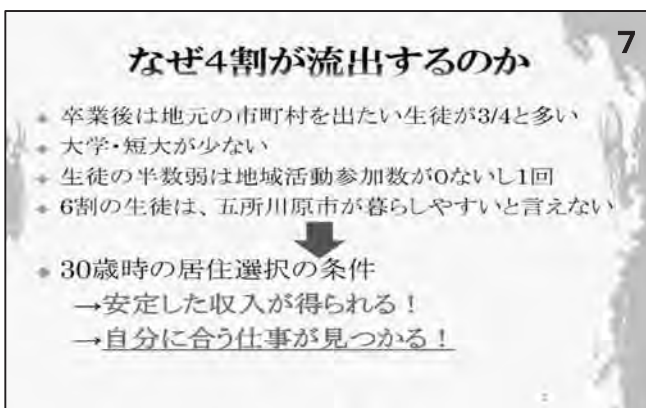
五所川原市5校の調査では、居留意思として、定住ないしUターンが50.9%、流出ないし予定が48.6%、そのうち地元を離れてそのまま戻らないだろうが、本当は残りたいが10.8%という結果になっています。

居住条件としては、安定した収入が得られるということが挙げられました。

この結果から、約6割の人が青森県に居たい、戻りたいと考えていることが分かりました。一言で言うと、地元で根ざし、同年代の友人や家族との仲間意識を基盤とした生活をベースにする若者が多いということが言えます。

つまり、地元で生活したいと思っいる高校生が多いということです。

(6)



五所川原市5校の調査で、卒業後は地元の市町村を出たい生徒が4分の3と多い、大学・短大が少ない、生徒の半数弱は地域活動参加数が0ないし1回、出たいと思う人も含め、6割の生徒は、五所川原市が暮らしやすいとは言えないということが分かりました。

五所川原市は、就職先、進学先が少ないのでこのような傾向になると考えられます。

また、30歳代の居住選択の条件として、安定した収入が得られる、自分に合った仕事が見つかるという点が挙げられました。(7)

なぜ青森県に残りたい 戻りたいと思うのか

家賃・物価が安い
待機児童が0である分社会復帰しやすい
同じ県に家族や友達がいることで、精神的にも頼れる



住みたいと思えるポイント

青森の強みを使って人口増加につなげたい！

では、6割は何故青森に居たい、戻りたいと思うのでしょうか。

青森県に残りたい、戻りたいと思う理由は、家賃・物価が安い、待機児童が0である分、社会復帰しやすいと考えられます。

更に同じ県に家族や友達がいることで精神的にも頼れるなど、地域との繋がりが強い人が青森県に住みたいと思うと考えられます。

つまり、地域に対する愛着が大切だと思います。

そこで、私たちは、青森県の強みを使って人口増加に繋げたいと考えました。(8)

青森県といえば・・・

- 農業(全国第7位)
- りんごは生産量は全国第1位
- 全国のりんごの約6割を占めている
- 生産量は多いが労働力不足である

農業(りんご)という青森県の強みを使って人口増加につなげたい

青森県の強みといえば農業です。農業生産量は全国第7位です。りんごに関しては、生産量は全国第1位で、全国の約6割を占めています。

しかし、生産量が多いものの労働力不足というのが現状です。

このことから、私たちは、人口増加に繋げるためにりんご産業を活用したいと考えました。(9)

りんごの海外輸出量

りんご輸出量(全国) 単位:トン

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
台湾	20,498	21,656	15,912	8,459	13,214	16,561	23,417	27,301
香港	857	1,284	1,134	975	1,192	2,595	5,415	6,713
中国	274	253	405	155	100	230	572	1,622
タイ	301	331	309	233	257	243	301	309
シンガポール	72	101	43	33	34	69	151	165
フィリピン	8	14	21	14	13	13	27	50
マレーシア	7	14	9	6	11	18	48	70
インドネシア	57	85	62	57	44	61	27	33
ベトナム	—	24	3	—	—	8	—	21
その他	171	120	40	33	34	41	57	43
合計	22,256	23,967	17,940	9,957	14,989	19,886	30,115	36,304


資料：財務省貿易統計

この表は、りんごの海外輸出量を示した表になります。現在、青森県のりんごの生産量は大きく変化していません。しかし、海外への輸出量は年々増加傾向にあります。特に台湾への輸出は一番多く、年々増加しています。

(10)

りんごの更なるブランド化

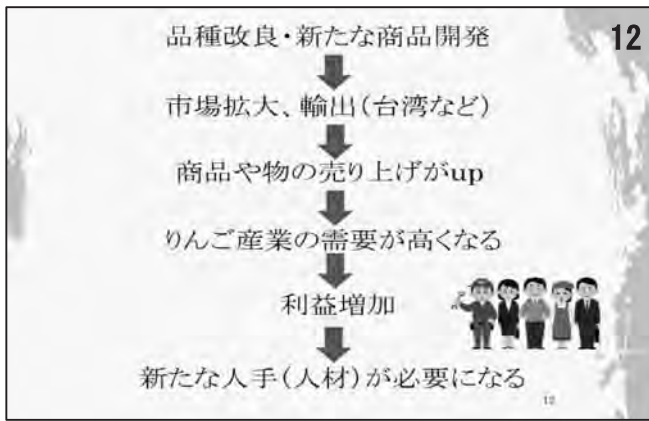
- 品種改良
→ 海外の人の口に合うりんごを作る
- 農産物加工品の強化
→ 新たな商品開発



私たちは、修学旅行で台湾へ行ってきました。台湾では、赤いものが縁起が良いとされているので、青森県産のりんごや加工品が好まれ、お店では多く販売されていました。

そこで私たちは、海外の方のニーズを把握し、海外の方の口に合うりんごの品種改良をすることで生産量が更上がるのではないかと考えました。

また、「青森県基本計画 選ばれる青森への挑戦」にもあるように、青森ブランドの確立に向けてりんご産業の更なるブランド化が大切だと考えました。(11)




この更なるブランド化をすることで、市場が拡大し、商品を輸出することで売上がアップします。そして、りんご産業の需要が更に高まると予想されます。

それに伴い、青森県へのビジネスチャンスが増え、新たな人手が必要になると思います。(12)

13

重要なこと

Uターンしたいと考えている人、県外に出たいと思っている人(4割)をどう引きとめるかが鍵になる



私たちは、人材を確保するために県外に出たいと思う4割をどう引きとめるかがカギになると考えます。先ほど提示したデータにもあったとおり、4割というのは、高校卒業後の18歳や大学卒業後の22歳に都会の企業に勤めたい人が県外に出ていきがちということが分かります。(13)

14

じゃわめぐ！五所川原に来たい(期待)！住みたい！あずまし隊！プロジェクト

「共有スペース」を活用し、交流の場づくり
→五所川原市役所本庁舎 土間ホール

- ① 高校生の学習や活動拠点として活用
- ② 高校生と大学生の連携
- ③ 高校生と企業・市職員との連携

ここで、私たちが考えたのは「じゃわめぐ！五所川原に来たい！住みたい！あずまし隊！プロジェクト」です。(14)

五所川原市役所本庁舎1F土間ホール 15

⇒知らない、活気がない、入りづらい、行きづらい場所だった

①勉強スペースとして活用することによって学校の垣根を超えた交流ができる→他校生とも気軽に話し合いができる

②高校生と大学生が共に一つのことを考える場にす

③企業と学生が連携して研究・発表したり、交流できるスペース

→単発の事業ではなく、半年や一年間をかけて事業を実施

→学生は企業を深く知り、地元のことも深く知ることができる

→困ったときは、市職員に直接相談ができる

「地方自治体が事業として行い、住民税の一部や企業の投資から予算を支出し、事業をバックアップすることで企画の実現ができる」と考える。高校生のうちから人材育成ができる！

皆さんも五所川原市役所本庁舎1階土間ホールを知っていますか？
 私たちは、青森公立大学と懇談会をするまでは活気がなく、入りづらい、行きづらい場所だと思っていました。
 このプロジェクトは、共有スペースである土間ホールを利用し、高校生の学習拠点として活用、高校生と大学生との連携、学生と企業、市職員との連携を図るなど、交流の場を作るためのプロジェクトです。

この土間ホールを地域の拠点の1つにしていきたいと思います。
 プロジェクトの具体的な内容としては、
 1、学習スペースとして活用することによって、学校の垣根を越えた交流ができるようになります。それは、他校生とも気軽に話し合いができることになります。
 2、高校生と大学生が1つのことを考える場にします。
 3、学生と企業が連携し、研究、発表したり、交流できるスペースにします。
 これらを単発事業ではなく、半年や1年間をかけて実施することで、学生は企業と地元をよく知ることができます。
 また、困った時は、市役所の職員に直接相談できるところがメリットです。
 このプロジェクトを地方自治体が事業として行い、住民税の一部や企業の投資から予算を支出し事業をバックアップすることが企画実現のための重要なポイントになります。
 また、実現するという事は、高校生のうちから人材育成ができることに繋がります。
 (15)

まとめ 16

◆ 地域を知ることができる

◆ 企業を知ることができる

◆ 「関係人口」を創出することができる

↓

◆ Uターン・県外に出たいと思っている(4割)の流出を食い止めることができる！

◆ 県内の労働人口が増加する！

人材育成として、このプロジェクトを進めると、学生は企業を知ると同時に地域をよく知ることができると思います。
 また、地域や地域住民との多様な関わりを持つものである関係人口を創出することもできると思います。
 それによって、県外に出たいと思っている4割の流出を食い止めることができ、県内の労働人口が増加すると考えました。(16)

**じゃわめぐ！五所川原に
 来たい(期待)！住みたい！あずまし隊！
 プロジェクト 17**

「共有スペース」を活用し、交流の場づくり

→五所川原市役所本庁舎 土間ホール

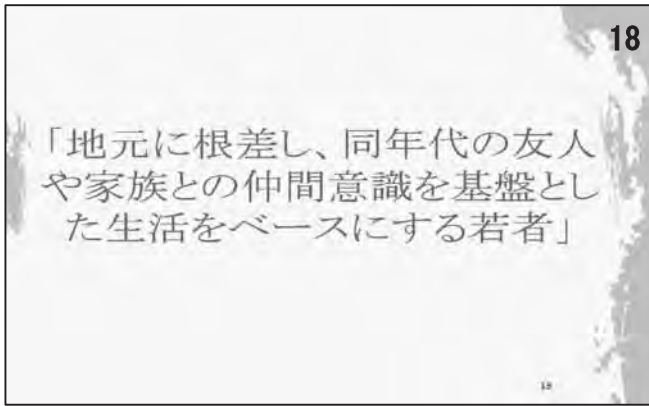
①高校生の学習や活動拠点として活用

②高校生と大学生の連携

③高校生と企業・市職員との連携

➡ 地元に対するの愛着が高まる
 将来の仕事選びにつながる
 自分に合った仕事が見つかる

このプロジェクトを行うことで、地元に対する愛着が高まり、県外ではなく、県内に住みたいとなる人が多くなると考えます。
 また、企業と交流することで、将来の仕事選びに繋がり、その中で自分に合った仕事が見つかるきっかけになると思います。(17)



このことから、これからを担う青森県の学生が地元で根差し、同年代の友人や家族との仲間意識を基盤とした生活をベースにする若者になることで、労働人口が増え、青森県全体の人口も増えると考えました。

「青森県基本計画 選ばれる青森への挑戦」は、2030年に生活創造社会の実現を目指していると思います。その時、私たちは28歳です。私たちが28歳になった時に、自分自身の将来の夢を叶え、生まれ育った地域で生活をしていきたいです。

そのためにも、今、私たちにできることは、地域をよく知り、より多くの人や事に関わっていくことだと思います。

これからの青森県を担っていける人材になれるように今後もより多くのことを学んでいこうと思います。(18)



御清聴ありがとうございました。
(19)

【質 疑】

さいとう ちかし
● 齊藤 爾 議員（自由民主党）

（齊藤議員）

大変ありがとうございました。

聞いていまして、素晴らしいなという一言に尽きます。

人口減少と労働力の減少というのは、我々県議会の中でもこれまで様々、何度も議論されてきたところではありますし、なかなかこれといった対策というものがなかなか出ていないというのも事実であります。

ただ、そういった中で、りんごにスポットを当ててブランド力を強化することによって、人口増加、ビジネスチャンスの増加というようなことを考えられた、凄いなというふうに思わせていただきました。

また、青森県の本県の基本計画までしっかり読まれた上での御質問ということで、なかなか、高校生の方たちが本県の基本計画を読むということ自体がそんなに、そんなにあることじゃないと思いますので、是非、そういったものを読んだ上で、またいろんな提言をしていただければと思います。

質問なのですが、本県の推しポイントということで、家賃・物価が安いというふうなことが指摘されておりましたけども、そういったことを皆さんのような若い方たちにどのように伝えていくか、青森県の良いポイントをどのように伝えていくかということ、その手法についてお伺いしたいと思います。

（回答）

御質問、ありがとうございます。

現状では、五所川原市5校の調査から分かるように、青森県内の魅力を高校生が感じていない割合の方が高いと思います。

しかし、就職後の県内定住者の満足度は高い傾向にあると思います。

青森県では、県内の魅力発信も多く行っていると思いますが、その魅力が高校生には伝わっていないのが現状であると考えます。

私たちが考える青森県の魅力は、家族など、知っている人が周りに多くいることだと思います。

県内での関係人口を増やしていくことで、青森県の推すポイントを若い人に伝えていけると思います。

以上です。

（齊藤議員）

ありがとうございました。

是非、皆さんの年代の方たちに、よく青森県の皆さんが調べた魅力というものを伝えていただいて、少しでも定住していただく、そして青森県に残っていただく、そういった施策を皆さんの側から提案していただきたいというふうに思います。

ありがとうございます。

(渋谷議員)

それでは、私の方から質問をさせていただきます。

青森市選出の渋谷と申します。

今回、プレゼンを見まして感じましたのは、この調査力と言うんでしょうか、問題を解決するために、まずは現状がどうなのかということを知るのが一番大事かと思っております。

その時に今回のグループワークを開催してから、台湾に行ったりんごの問題、そして公立大学、特に飯田研究室と懇談して、実際、この青森県の今の問題点、どういうものかということの詳細に調べてこられまして、現場に行って調べて、そしてこの数値ですね、現状を詳細にここに挙げていただきましたけども、これ、議会でもそのまま使えるのではないかと思えるぐらいの内容でございました。素晴らしいものだと思います。

そして、この議会、現状、課題を見てから、じゃどうしたいんだということで、様々提案していただきましたが、私の質問は、まずは五所川原の土間ホール、ここに高校生の学習活動拠点として活用し、そして大学生との連携、それから企業、市職員との連携、こういうものをする場所にしたいということでお話しておりましたけども、この提案、具体的にどうすれば、この場所に皆さんが提案したような方々が集ってくることができる、そのように考えているのかお伺いします。

(回答)

御質問、ありがとうございます。

私たちは、土間ホールの利用時間を延ばす必要があると考えています。

土間ホールは駅から近いのですが、利用時間が18時までとなっており、18時以降の電車で通勤、通学する人は利用できないということになります。

利用時間が延びることで、電車の時間まで待ち時間がある人が集える場になると思います。

また、プロジェクトの提案内容のほかに、月に1度、交流会を行うことで、土間ホールがより身近な存在になり、土間ホールという存在が広く知られ、普段から人が集う場になるのではないかと考えています。

以上です。

(渋谷議員)

ありがとうございます。

今、全国で、全国の高校で、このテーマ、地域の課題を解決する、それをテーマに高校生が一緒になって地域の企業など、行政の方と一緒に活動して、地域の課題を実際解決していくという取組が、今、全国で行われています。

是非とも皆さんも折角こういった提案をしてくださいましたので、この輪を、取組を広げていただければと思います。

最後に、今日、来られた皆さん、ほぼ、ほぼ女性、女子高生の方なわけですね。ところが、政治の世界では、女性の議員がなかなか少なくて、今、男女共同参画と言いながら、それが実現できていない状況であります。

18歳から選挙に是非参加していただいて、将来はこういった提案をしてくださる皆さんが議員を目指して、議会、行政の活性化をしていただきたいと、そういうことをお願いして質問を終わらせていただきます。

(吉田議員)

上北郡選出の吉田絹恵といます。よろしくお願ひいたします。

今、皆さんの発表を聞いて、本当に驚いています。

というのは、やはり若いということは凄しい、今の高校生の人たちが、こんなにきちんとした考えをもって、いろんなテーマに取り組んでいく、そういうことに凄しい感銘を受けました。

これだと、青森県も大丈夫じゃないかなという、本当に期待を一杯持ちました。

先ほど、渋谷先生もおっしゃいましたが、男子の方が一人だけあとは女性ということですので、一言、このことに直接関係ないんですが、今、この説明の中に外に出ていく人が多いのをどうやって食い止めるかというのが、私たち議員の中でも凄しい課題になっています。

でも、私は、若いうちに自分が今まで育ったところでないところを見て、感じて、生活していつて、そういう経験が後で凄しい役に立って、県に戻って来た時に、あの時の、ああいうふうに送ってやったのが良かったなということ一杯経験して見えていますので、本当は、最初から高校生の方の希望に合うように県も頑張って環境を整えていかなければならないんですが、今、一生懸命、それについても取り組んでいる最中ですので、台湾に旅行に行って実際見て、それは本当に皆さんの宝になるんじゃないかなと思っています。

ということで、女性の方が多いということで、問題についての取り組み方についても、凄く丁寧で細やかで、きちんと過程が把握されていて、本当に立派だと思います。

是非、これからもそういう姿勢を持ち続けていただきたいと思います。

私の質問としては、青森県は凄しい労働力不足、今、青森県だけでなく、どこの県でもそうなんですが、そういう時にりんごのブランド化ということをご提案していただきました。

やはり、これを推し進めるには、やはり今、一生懸命関わっている方が高齢化とかそういうこともあって、できれば若い人がこれを継いで、伸ばしていつてくれないかなという思いが、私たち議員にも一杯あって、いろいろ考えたり提案したりしておりますが、皆さんは、このりんご産業の担い手になってもらうように、どのように働き掛けるのか、お伺ひしたいと思います。

(回答)

御質問、ありがとうございます。

若い人たちがりんご産業の担い手になるためには、りんご産業が全体をブランド化していくことだと思います。

私が考えるりんご産業の担い手とは、単純にりんご農家の担い手だけではなく、りんご産業に関わる全ての人たちが担い手だと思います。りんご産業に関わる人たちが、誇りを持つことが大切であると思います。

そのようになっていくことで、りんご産業の担い手が増えると思います。

以上です。

(吉田議員)

そうですね。

りんごを作る人だけがりんごの産業の担い手じゃなくて、いろんなりんごに関するところがあると思います。

しかしながら、その元になるりんごができないことには、前に進まないこともありますので、私

たちもそれをどうやって担い手を確保していくか、これから考えたいと思いますし、皆さんの若い、本当に発想が素晴らしいし、それを私たちには長年やってきたのがあって、それがちょっと既成概念、あまりにも「こうである」という考え方が強くて、柔軟にそれにスッと入っていけないようなところがあるので、若い人の力も借りて、一緒に頑張っていけたらなと思います。

本当に今日は素晴らしい、皆さんの力を見せていただいて、私も段々年取ってきているんですが、皆さんのためにも、青森県のためにも頑張りたいと思いますので、よろしく御協力をお願いいたします。

本当に今日はありがとうございました。

終わります。